

再作成することにした。

そして透析室スタッフを対象としてトラブル時の電話対応についての勉強会を行った。PD担当スタッフ2人が患者役と電話対応看護師役となり、

具体的な事例をもとに作成したトラブル時電話対応マニュアルを用いて理論づけた説明とデモンストラクションを行い、スタッフの理解を深めることができた。

スコープ洗浄・消毒の履歴管理（内視鏡室での取り組み）

内視鏡室 山本 文子 竹沢ひとみ
白井 雪乃

内視鏡室では、3年前より、スコープの履歴管理をはじめました。履歴管理は、適切に洗浄、消毒をしている証明になります。感染対策の基本は「洗浄・消毒に関するガイドライン」を遵守することですが、その質の保証をするものとして、履歴管理が重要になってきます。内視鏡検査や治療において、患者から感染の可能性を指摘されることは、今後あるかもしれません。こうした事を想定した場合、洗浄消毒を確実にしていることを、目にみえる形で、残す必要があります。また、あってはならないことですが、記録に残すことで、感染が起こった場合、スコープがどのように、使用されたか、後追いができることです。最初ですから、手書きで、記録として残していくことを目標にしました。

記録として残したい項目として①患者名とID番号 ②患者に使用したスコープ③洗浄日時 ④使用した洗浄消毒装置 ⑤消毒薬の濃度・効果をあげ、方法をかんがえた。受付事務、介助NS、処置NS、洗浄係とそれぞれの役割をもとに、施行していった。

忙しい中、記録する作業がふえたが、スタッフの協力のもとに継続していくことが重要であり、原因追求の為だけでなく、自分たちが、きちんと洗浄消毒したことの証明になることを理解し、進めていった。現在では、履歴管理は、業務の一環となり、あたりまえのように、なっている。内視鏡室の検査、治療を安全に行うために施行している一つとして発表します。

検査技師による病棟採血業務の取組み

検査部 酒井 悦子
採血ワーキンググループ
3-7病棟 野田美由紀 牧野 仁美
高橋 涼子

I. はじめに

2006年度の診療報酬改正で、看護師配置7:1にて入院基本料が大きく改正された。

急性期病院において7:1を維持することは病院収益においても必須である。検査部と看護部は相互の連携を目的に2006年より合同会議を行ってきた。その中で看護師不足の状況より看護支援とし

て、“検査技師による採血”の提案がなされた。2010年よりまず外来採血業務が検査部に移行し順調に稼働した。更に2011年より病棟採血業務導入に向け検討を重ね2013年6月より開始することができた。検査部・看護部の病棟採血への取組みを報告する。